

2023 年度 第 2 回 日本臨床検査医学会 臨床検査専門医・管理医審議会 議事録

日時：2023 年 8 月 26 日（土）15：00～17：10

場所：日本臨床検査医学会事務所

出席（8 名）：

大西宏明（委員長）

田部陽子（副委員長）

三宅一徳（受験・更新資格審査委員会委員長）

山田俊幸（試験委員会、2022・2023 年度 臨床検査管理医試験実行委員会、日本専門医機構認定臨床検査
専門医更新資格審査委員会/研修プログラム認定委員会 委員長）

古川泰司（2022・2023 年度 臨床検査専門医試験実行委員会委員長）

吉田 博（Subspecialty 検討委員会委員長）

木村 聡（教育委員会担当理事）

菊池春人（日本臨床検査専門医会代表）

欠席（0 名）

大西宏明委員長より、2023 年度第 2 回日本臨床検査医学会 臨床検査専門医・管理医審議会開会宣言の後、議事を進行した。

1. 第 15 回臨床検査管理医講習・認定試験 試験実行委員会報告（2023/8/6（日）、帝京大学医学部）（山田俊幸 管理医試験実行委員長）

2023 年 8 月 6 日（日）に帝京大学医学部板橋キャンパスにおいて、第 15 回臨床検査管理医 講習・認定試験を実施した。当初 30 名の受験希望者があったが 1 名が受験辞退となり 29 名が受験したことが報告された。

そして、管理医試験での各受験者の成績表が提示され、29 名が 3 科目合計点で合格基準に達していることが確認され合格と判定され、承認された。

2. 試験委員会・試験実行委員会報告

3. 第 3 回機構専門医・第 40 回学会専門医 認定試験 結果について

（大西宏明 委員長、古川泰司 試験実行委員会 委員長、山田俊幸 試験委員会 委員長）

2023 年 8 月 6 日（日）、帝京大医学部板橋キャンパスで実施した、第 3 回日本専門医機構臨床検査専門医および第 40 回日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定試験の判定会議を学会事務所（各委員長と領域代表は現地参加）と Web のハイブリッドで開催した。

まず、試験の合格基準については、先の本合同会議で、機構専門医試験は研修カリキュラムに沿って、7 科目につき筆記試験、実技試験を行い、1：1 で採点評価する。筆記試験は MCQ とし、総計で 100 問とする。全体の得点率 60%以上を合格とし、科目再受験は設けない。面接は臨床検査医学総論で行い、人間性の評価を加える。学会専門医試験は機構専門医試験を適用する。ただし、遺伝子関連検査が臨床検査総論から独立したため、両者を合わせて臨床検査医学総論として評価する。合否判定、科目受験の設定は一昨年、昨年と同様に行う。としていたことを確認した。

8 月 6 日（日）、当日は、会場でのトラブルはなく、試験自体も問題なく実施された。

機構専門医受験希望者 8 名、学会専門医受験希望者、初回受験 6 名、再試験受験 2 名が受験した。

採点は、領域により、当日、あるいは、後日採点し、後日、実行委員長が集計した。

MCQ では、正答率 20%未満の問題が 2 問あったが、内容としては適切な問題であったことが確認された。識別指数は受験人数が少ないため参考程度と考える。MCQ、実技試験とも科目間の評点について、大きな乖離は認められなかった。

そのうえで、8月16日に試験委員会・試験実行委員会合同判定会議（ハイブリット開催）を行い、各採点結果を確認、議論のうえ、機構専門医8名合格、学会専門医の初回受験4名合格、2名はそれぞれ5科目、4科目不合格、科目受験の2名が合格と判定された。

以上の経緯が、本審議会に報告され確認のうえ判定結果通り承認された。

4. Subspecialty 検討委員会報告（吉田 博 委員長）

2023年7月21日に行われた日本専門医機構サブスペシアルティ領域専門医制度についての説明・意見交換会での内容が報告された。

日本専門医機構サブスペシアルティ領域専門医制度研修細則の改定があり、改定案の要点は下記となる。

1) 制度運営にあたって、専門医機構、基本領域連絡協議会、サブスペシアルティ領域専門医検討委員会の3者の役割分担を明確化する。

2) 専門医制度の全体像を定め、3つのカテゴリーに分類した制度設計を行う。

カテゴリー1：機構が指定する領域

機構が必要性に鑑みて指定し、基本領域連絡協議会と協力して機構が認定する領域である。現在の基本領域と既認定領域は全て含まれる。

カテゴリー2：連絡協議会が推薦する領域

カテゴリー1には該当しないものの、認定基準(外形基準)を満たす領域で基本領域連絡協議会からの推薦により機構が認定する領域である。

カテゴリー3：連絡協議会が認定する領域

機構が定める認定規則により基本領域連絡協議会が必要性に鑑みて認定する領域である。機構は認定規則に合致しているか審査し承認する。

そして、基本領域ごとのサブスペシアルティ領域認定数の上限（案）について、1つのサブスペシアルティ領域を認定するには、各基本領域において単年度あたりの平均専攻医数 250人以上とする案が提示された。以上について、9/15期日として基本領域連絡協議会から細則の改定に関する質問、意見を受け付けるとのことであった。

なお、8月29日（火）に第1回機構認定サブスペシアルティ領域懇談会が開催予定であり、当会より3名が出席予定である。

5. 2024・2025年度、管理医、専門医認定試験について（大西宏明 委員長）

2024・2025年度臨床検査専門医認定試験の実行委員長、施設について検討された。数名の候補が挙げられたが、決定には至らなかった。次回、臨床検査専門医・管理医審議会までに、実行委員長を引き受けていただけるか数名の先生に打診することとなった。

ただ、会場の確保、試験運営のためのスタッフなど実行委員長の施設での負担が大きくなるため、将来的には貸会議室での実施や、試験方法についても効率的な方法を模索していくこと等も含めて検討していくこととなった。古川試験実行委員長に、試験実施方法が変更された場合の問題点について挙げていただくこととした。

6. その他（大西宏明 委員長）

①2027年4月1日以降の日本専門医機構臨床検査専門医更新基準が承認されたことに伴い、更新用試験が導入されることとなる。日本専門医機構システムで更新 e-テストの構築を進めているため、それを利用する予定としている。試験内容は MCQ10 問出題で全問正解を想定しており、試験問題は臨床検査専門医試験の過去問を蓄積して使用することを考えていることについて、山田俊幸委員長より意見を求められた。概ね賛成の意見が多かった。出題する問題を 10 問ではなく 13-15 問程度として 10 問正解にする提案もあった。引き続き、意見をもとに日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会で検討することとなった。来年以降は、更新試験に使用できるよう、ここ数年に進歩・変化がみられたような内容を問う新規 MCQ 問題を各領域で毎年 1 問程度作成いただくこととし、次回以降の試験実行委員会に依頼することとなった。

②遺伝子関連検査認定医・専門医に関することは遺伝子関連検査認定医・専門医ワーキンググループ（田部陽子委員長）で検討しているが、将来的な認定医・専門医の認定や、それに関わる重要事項については、臨床検査専門医・管理医審議会に報告のうえ、協議していく提案があり承認された。

③次回の臨床検査専門医・管理医審議会 開催日程が報告され、本会議は閉会された。

・第3回：2023年12月26日（火）17：00～19：00

2023年度 第1回 日本臨床検査医学会 評議員審査委員会 議事録

2023年度 第1回 日本臨床検査医学会 評議員審査委員会の開催が宣言され、議事を進めた。

1. 評議員（社員）再任予定者（2024/01/01付）について（大西宏明 委員長）

評議員再任は社員総会の承認が必要であり、1月1日より任期開始となるため、2023年11月16日（木）の臨時社員総会で2024年1月1日付評議員再認定予定者27名の承認を得る必要がある。審議され予定者27名について承認された。

ただし、今後、評議員は再認申請をし、その申請結果を2023年12月26日（火）の評議員審査委員会で審査したうえで最終的に再任が承認される予定であり、臨時社員総会で承認されたとしても、再認定の単位を満たさない場合は退任となる。